

ソニマムトゥ (嶺間御嶽)



嶺間御嶽に祀られて
いる神は、「あまれふ
ら泊主」という男女神
(男と女のふたりの神)
で、航海安全の神とし
て、城辺の4つの村が
崇拝していたと『御嶽

由来記(1705)』に記されてあります。

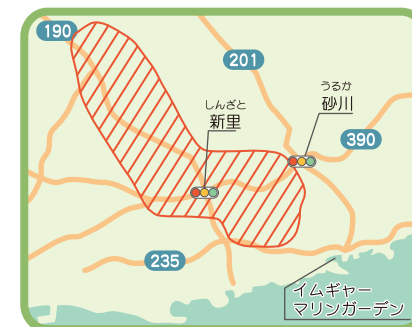
由来記には『昔、友利村の後ろにあるあまれ山の麓に戸数
わずかな村があった。ある夜、突然の津波ですべて流され、
ただひとり生き残った大津かさという女は、嶺間山の上に小
屋を建て、ひとりで暮らした。ある時、東平安名崎の近くの
宮度浜に、大和の難破船が流れ着き、助かった男が大津かさ
と巡り会い、夫婦となった。ふた
りは子孫に恵まれ、あまれ村とい
う村ができた。しかし彼らの住ん
でいた嶺間山もあまれ村も、どの
あたりであったかは定かではな
い』と記されています。



ツマグロゼミ *Nipponosemia terminalis*(MATSUMURA1913)



ツマグロゼミは中国、台湾、八重山諸島、宮古島に分布し、
宮古島が北限とされます。宮古島では、城辺地区の砂川・友利
集落の一部と、上野地区の新里集落に生息しています。頭を下
にしてとまる習性があり、5月下旬～6月下旬に発生し、朝の
5時半頃から夕方19時半頃までシーツ、シーツと鳴きます。
方言で「ヌービスガーラ」「ヌスピガーラ」と呼ばれていま
す。生育木のイスノキが減少
傾向にあることから、1996年
に上野村役場により「ツマグ
ロゼミ増殖施設」が新里に建
てられ、植林や増殖事業を
行っています。



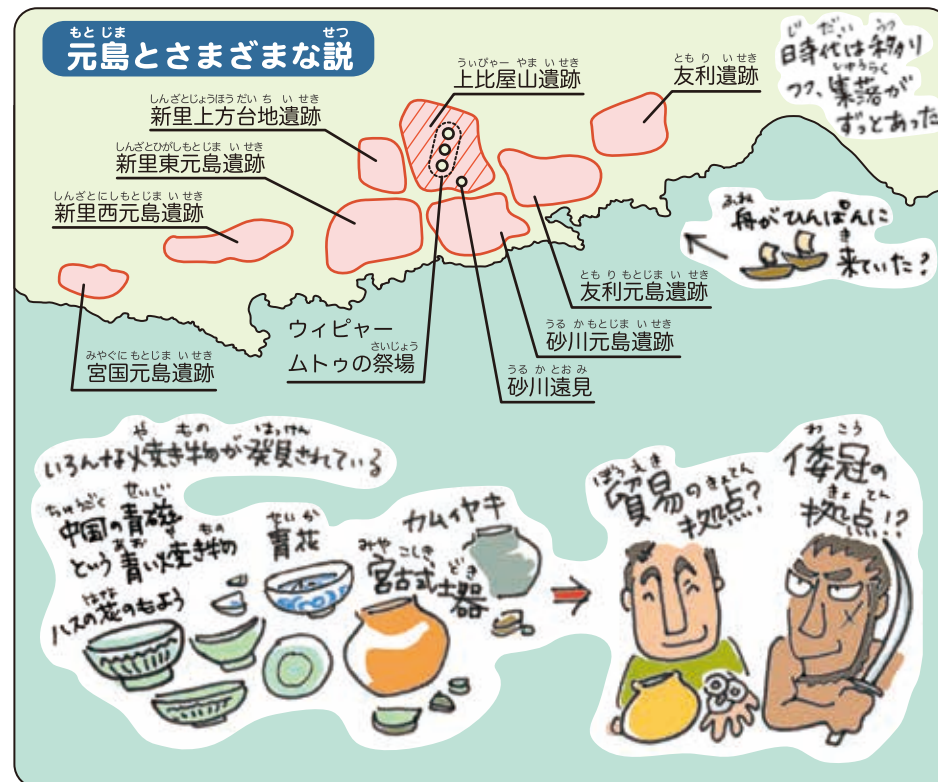
うい びゃー やま い せき
上比屋山遺跡



うる か しゅうらく みなみ
砂川集落の南にある14～15世紀の遺跡で、高さ40mの琉球
せっかいがんきゅうりょう
石灰岩丘陵にあります。南側の砂川元島遺跡とあわせて広い集
あと けいせい
落跡を形成しています。

この遺跡からは、みや こしき ど き
宮古式土器や、せい じ
青磁、おきなわ せいとう き
沖縄製陶器、さん
タイ産
つぼ
の壺などがみつかっています。その中でも、とくに青磁が
かいしやく
多く、その解釈については「倭寇の根拠地説」「貿易で栄えた港
まち せつ
町説」「貿易の中継基地説」などがあります。

また、遺跡内には、けん し てい ゆう けい みん ぞく ぶん か ざい
県指定有形民俗文化財「ウイピャーム
さいじょう
トゥの祭場」や、国指定史跡「先島諸島火番盛(遠見番所)」の
うる か と お み
ひとつである「砂川遠見(トゥンカイフツイス)」があります。



わ こう
「倭寇」ってなあに？

「倭寇」とは、13～16世紀にかけ
て、朝鮮半島や中国大陸沿岸などで活
動した、りやくだつ ころう ぎ
略奪行為や密貿易などを行っ
た集団のことです。この倭寇の歴史を
大きく見ると、前期と後期に分けるこ
とができ、上比屋山遺跡と同時期頃の
15世紀までの前期倭寇は、主に瀬戸内
かい きたきゅうしゅう ほん きょ ち
海・北九州を本拠地とした日本人が多
かったと言われています。



ウイピャームトゥの祭場



マイウイピャー



クスウイピャー



ウイウス

ウイピャームトゥの祭場
は、砂川集落南方の上比屋山
遺跡にあり、籠りの儀礼に使
われる「マイウイピャー」「ク
スウイピャー」「ウイウス」の
3棟の家屋が、祭場内の石垣

などととも、よく保存されています。3棟とも側面が琉球石
灰岩の石積みで、それぞれほぼ南向きです。

祀られている神についての由来は『雍正旧記(1727)』や
『宮古島記事仕次(1748)』に記されています。

主な行事に2月籠り、ナーパイ、8月籠り(節祭り)などがあ
り、宮古の村落の、神々や祖先などをまつる祭りを理解するう
えで極めて貴重な文化財です。

「ナーパイ」の由来

むかしむかし、「さあね」という男
の子がいました。7歳の頃、大津波が
村を襲い、人も家も残らず押し流され
てしまいました。ひとり取り残された
さあねは、途方に暮れ、泣きながら村
を歩きまわりました。それを見てかわ
いそうに思った喜佐真按司という人
が、さあねを引き取って育ててくれま
した。さあねが15、6歳になった頃、
浜を歩いていると、小舟に乗った美し
い女が現れ、「私は、むまの按司とい
います。あなたの妻になるために竜宮
の神様から遣わされて来ました」と言
いました。さあねは驚き、「あなたと
私とでは身分がちがうのでつりあいま
せん」と浜に手をついて断りました。
しかし「竜宮の神様が言うのだから遠
慮はいりません。さあ、あなたの両親
が住んでいた所へ案内してください」
と言われ、さあねは仕方なく上平屋山
へと連れて行きました。荒れ果てた地
に家を建て、男7人女7人の子どもが
生まれました。子どもたちが大きくな
ると、妻は「あなたを助けるために一
緒に暮らしてきましたが、子どもたち
も大きくなったので竜宮へ帰ります。
夫婦になってくれたお礼に、あなたを



悲しませた津波が二度とこないよう、
津波除けの方法を教えます。3月初め
の酉の日に「たいく(ダンチュクという
竹に似た植物)」を磯づたいに差し、
海と陸との境にしてください。そうす
れば、いつの世までも津波が襲うこと
はないでしょう」と言って、海へ入
り、見えなくなりました。

それから、村では旧暦の3月初めの
酉の日に、女性は「たいく」の棒を磯
に差し、男性は船漕ぎのまねをするよ
うになり、津波除けの神事「ナーパ
イ」が始まったということです。

『雍正旧記』より



さきしましょう ひ ばんむい
先島諸島火番盛 「砂川遠見 (トゥンカイフツイス)」



先島諸島火番盛は、沖縄県先島諸島2市2町1村の、19か所に点在する遠見番所群で、砂川遠見はそのひとつです。上比屋山の南端に位置し、方形状の琉球石灰岩の切石積みで、東西約7m、南北約4.5m、東壁の高さ1mほどの規模の遺構です。遠見台からは太平洋が一望でき、眼下には砂川元島遺跡と友利元島遺跡を見ることができます。

火番盛は、1644年、江戸幕府の鎖国体制下で、薩摩藩が支配する琉球王府によって設置されました。主に、異国船の到来を監視し、のろしを上げて各地の火番盛を伝って番所や蔵元に通報し、琉球王府へ知らせる機能を担っていました。

先島諸島は琉球列島の最西端に位置しており、火番盛は、対外関係と鎖国体制の完成を示す遺跡として重要なものです。

かくち ひ ばん むい
各地の火番盛



いけ ま とお み
池間遠見



かり ま とお み
狩俣遠見



くり ま とお み
来間遠見



しま じり とお み
島尻遠見



うるかクイチャー



うるかクイチャーは、砂川集落独特のものです。若い男女が昼間の労働から解放され、夜の一時を楽しく歌い踊る様子と、踊りの輪の中から好きな女性の手を取り、袖を引いて連れ出し、時の経つのも忘れて語り合う様子を歌っています。

踊りは、通常は男が歌って踊り、次に女が囃して踊りますが、全員が同時に歌い囃して踊る場合や、歌と踊り・囃しと踊りというように二組に分かれて交互に行う場合もあります。歌と手拍子が揃い、威勢のいいきうきした雰囲気をもし出しています。

うるかクイチャー

※歌や踊りの長さは状況によって変わります

(マキヤードゥス°を踊ってから、クイチャーを踊る)

マキヤードゥス°(巻き踊り)

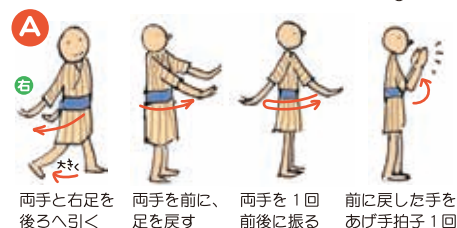
円になり、内側を向く。
歌にあわせて手拍子と足踏みをし、「サーッサユイサグイサ」で反時計回りにモーヤー(カチャーシーのように手を左右に振りながら踊る)を踊る



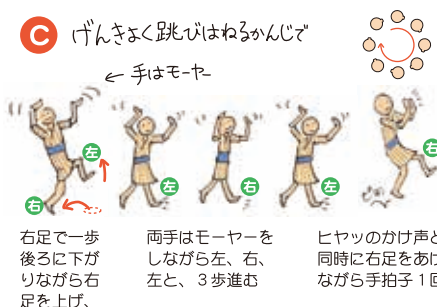
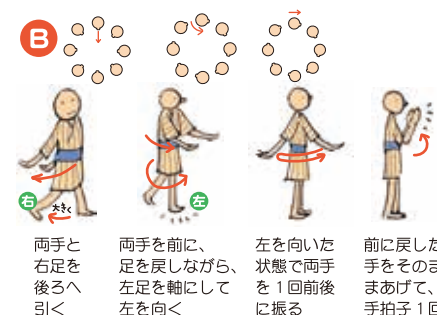
×4回

クイチャー

歌と三線にあわせて踊る



×4回



×2回

※最後は歩きながら円の内側を向く

「クイチャー」ってなあに？

宮古全域に古くから踊り継がれてきた踊りで、屋外で、みんなで円になって踊ります。クイチャーの意味は「声合わせ」や「神の魂を乞い願う」と言われており、願いが成就した時の喜びを老若男女が心をひとつにして表現していきます。クイチャーは、御嶽で豊作を祈り、雨乞いをするのが習わしでしたが、いつしか、村の若い男女が寄り合い、歌い踊るようになりました。

A B C を1曲終わるまで繰り返す

曲が代わり、
A ×2回 B C を男女交互に踊る

曲が終わったら
A ×4回 を踊り、カンカンという鉦鼓(しょうこ)の音でマキヤードゥス°に戻り、終了



とも り 友利クイチャー



むかし 昔、ブンミャー(村番所)で機織りをさせられた女性たちは、
さん 珊瑚礁にあたってできる白波が上布の模様のように見えること
から、白波は上布に、浜の砂は粟になりますようにという願い
をこめて、クイチャーアーグ(歌)に仕上げたといいます。

ひる ま 昼間の大変な労働から解放された若者たちは、夜、通りに集
まり、面白おかしく男女の様子を歌い踊ったりしました。

とも り 友利のクイチャーは男踊りと女踊りという区別はなく、男女
いっしょ 一緒に大地を踏み鳴らして踊る威勢の良さが特徴です。

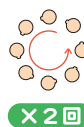
友利クイチャー

※歌や踊りの長さは状況によって変わります

(マキヤブドゥス°を踊ってから、クイチャーを踊る)

マキヤブドゥス°(巻き踊り)

「サッサー」のかけ声で入場、円
になり、内側を向く。歌にあわせ
て手拍子と足踏みをし、反時計回
りにモーヤー(カチャーシーのよ
うに手を左右に振りながら踊るこ
と)を踊る



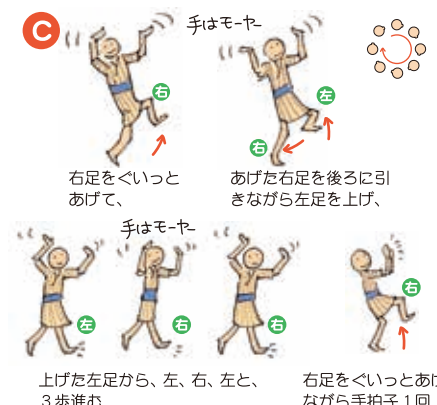
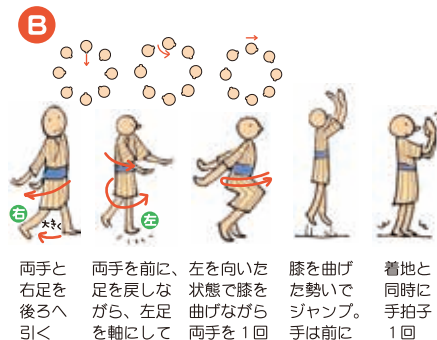
クイチャー

歌にあわせて踊る



「クイチャー」と人頭税

人頭税とは、1600年頃から260年
以上に渡って続いた苛酷な税です。
15～50歳に課せられ、男は粟・胡
麻・綿花などの農作物、女は細い糸で
織られた上布という織物を納めなけれ
ばなりません。この税は、全員
に同じ税額を課したため、貧しい者や
土地の少ない者にとっては大変な税で
した。税を払うために働くような
生活の中で、クイチャーは数少ない若
者たちの楽しみでした。



※4回目は手拍子で円の内側を向く

A B C を曲が終わるまで繰り返す
サッサーのかけ声で手拍子しながら足踏
みに戻り、モーヤーを踊りながら退場



とも り し し まい
友利獅子舞



獅子の起源についてははっきりしていませんが、お年寄りの話によると、約250年の歴史があるといえます。

昔は疫病、火事、早魃などが起こると、すべて悪霊の仕業であると捉え、村人たちは総出で三尺(約91cm)程の棒を持ち、獅子を先頭に、道端の石垣や草木を叩きながら、集落内の道を隅々まで廻ったと伝えられています。

1830年頃から災害の発生しやすい夏の8月頃に、魔除け、厄払い、無病息災、五穀豊穡の祭りとして、獅子舞いを一年越しに行うようになり、現在に伝えられています。



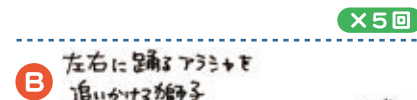
指笛でスタート、「サッサー」のかけ声で入場



マキヤブドウス(足踏み手拍子、右回り×2回)を鉦鼓(しょうこ)をならしながら踊り、最後にジャンプ



鉦鼓と笛、ホラの音に合わせてアラシャが獅子を起こす。獅子は叩かれるたびに口を大きく開けて体を揺らす



アラシャが振る玉を追いかける獅子



左右のアラシャが入れ替わると同時に、獅子がぐるんと1回転。その後、手に持っている玉を獅子の顔の前で振る



再び円になり、ジャンプをしてからAを踊る
もう一度獅子の頭を叩き、B×1回 C×2回



縄の先の玉を獅子にかませ、上下に縄を振りながら1回転



最後にもう一度円になってAを踊って終了



ぶん か ざい たい けい ず
文化財の体系図

ぶんかざい しゅるい
文化財の種類

とく か ち たか
特に価値の高い
もの

とく じゅうよう
特に重要なもの

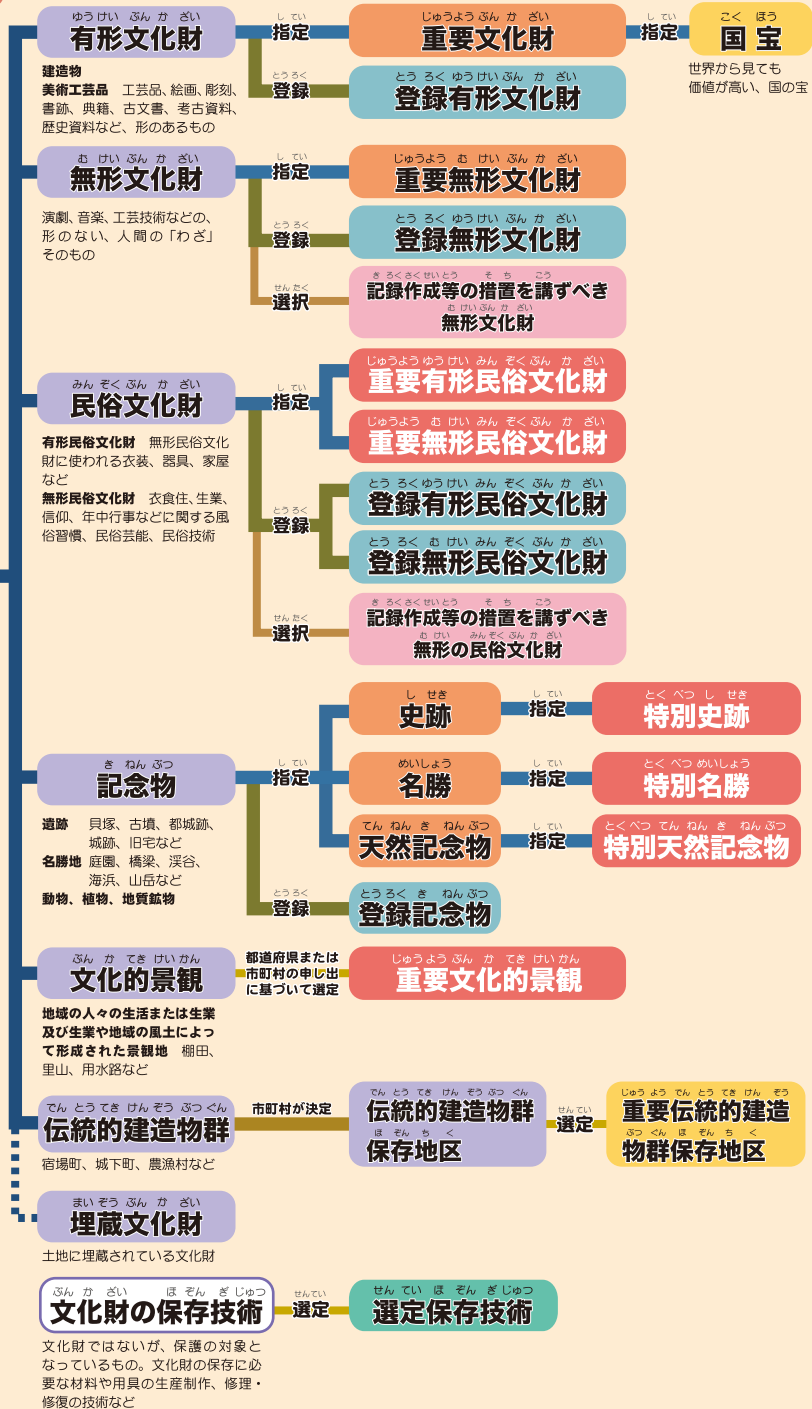
じゅうよう
重要なもの

ぶん か ざい
文化財

とく ひつよう
特に必要のある
もの

保存と活用が
特に必要なもの

保存できるよ
考える必要の
あるもの



それぞれの文化財の一例

※宮古島市や、沖縄県、九州にある文化財の一例

有形文化財

形のあるもの

形のないもの

無形文化財

指定

 **宮古上布**
(みやこじょうふ)

文化財

記念物

にんげん
人間と自然が
作ってきた景色

文化的景觀

重要文化的景観 (きゅう なかそねしていえん)

府の湯けむり・温泉地
大分県（べっふの ゆけむり
せんち／おおいたけん）

**伝統的
建造物群** { れきしてき
歴史的なまち
なみや景色

傳統的建造物
群保存地区

国宝



治金丸 / 沖縄県
(じがねまる / おきなわけん)

**民俗
文化財**

指定
登録

宮古島のパートウ



史跡 (

遠見番所
(とおみばんじょ)



東平名崎
(ひがしへんなぎ)

特別名勝



識名園 / 沖縄県
(しぎなえん)

景色の
よいところ

きょう し
貴重なる
自記念する

天然記念物



オカヤドカリ

特別天然記念物



イリオモデヤマネコ

選定保存技術



苧麻糸手績み
(ちょまいとてうみ)

埋藏文化財

今
 旧平根町会
 の下には埋まってる
 住屋遺跡
 (すみやいせき)

わたし ぶん か ざい
私たちの文化財です

たい せつ
大切にしましょう

ぶん か ざい きょ か む だん げんじょうへんこう
文化財を許可なく無断で現状変更する
ことは法律で禁止されています。



この冊子是非売品です (NOT FOR SALE)

宮古島市neo歴史文化ロード 綾道(砂川・友利コース)

発行 初版 2012(平成24)年 3月
改訂 2019(平成31)年 3月・2021(令和 3)年 3月
2025(令和 7)年10月

編集・発行 宮古島市教育委員会
〒906-8501 沖縄県宮古島市平良字西里1140番地
TEL 0980-72-3764 FAX 0980-73-1976

イラスト・デザイン 山田 光